

(別添 2)

No.	1
策定年月	令和3年5月
見直し年月	

対象地域

東大進、東谷、清水、脇本
嶋、上平吹、久喜、長沢

麦・大豆産地生産性向上計画 南越前町産地 (作成主体:南越前町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

南越前町は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約7割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦の生産を拡大する必要がある。

麦の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い産地づくりを推進していく。

また、獣害防止策の徹底により、担い手の生産意欲を維持するとともに、新たな栽培技術を推奨することで、排水対策を徹底し、単収を安定させることで、産地全体の収量増加を図る。

現在、南越前町においては、人・農地プラン、多面的機能発揮促進事業、中山間地域農業直接支払事業等により、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・本地域ではかねてより、麦そばの二毛作でブロックローテーションを組んで、麦の栽培を行ってきた。現在、作付されている品種は、六条大麦のファーマースノウである。麦茶や麦とろ麺用として、製粉企業等に販売されているが、実需からの要望を生産量が満たしていないため、作付面積の拡大および収量の増加を図り、生産量増加が求められている。

(2) 生産における現状と課題

・近年、麦の作付面積が大幅に減少しており、単収についても低下している。かつては、町全体で100haほどあった作付面積も、現在は30haを切る程度である。作付面積の減少については、主にシカ等による食害が挙げられる。集落単位で獣害防止柵を設置するなど、獣害防止に努めているが、捕獲隊員の更なる増員により、捕獲頭数を増やすなどして、更なる獣害対策が求められる状況である。単収低下の原因としては、排水不良が単収低下の大きな要因となっている。そのため、排水不良圃場においても安定した収量を確保できる、新たな栽培技術が求められる。併せて、作付頻度の増加による地力低下等が考えられるため、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が求められる。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦										
大麦	ファイバースノウ	(13.6) 13.6	(11.3) 11.3	(13.4) 13.4	(74.3) 74.3	(159.2) 159.2	(103.0) 103.0	(10.1) 10.1	(18.0) 18.0	(13.8) 13.8
作物計		(13.6) 13.6	(11.3) 11.3	(13.4) 13.4	(74.3) 74.3	(159.2) 159.2	(103.0) 103.0	(10.1) 10.1	(18.0) 18.0	(13.8) 13.8

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦	ファイバースノウ	9.4	69.1%	5.4	47.8%	8.7	64.9%	
作物計		9.4	69.1%	5.4	47.8%	8.7	64.9%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福井県においては、「団地」はおおむね1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としているため、その基準にならない団地化率を算出した。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。